

叔母を メス化 させてみた

Try to make my aunt
a female slave.



冒頭

18の娘を持つ一児の母である由紀子は
夏休み期間中の一週間…
妹の息子である優馬を預かることになった。

「ちょうどあの娘もしばらく家にいないし、
寂しくなくていいわ。
一週間と言わずもっと居てくれても
いいくらい」

気楽な時間は無くなってしまいが
自分を好いてくれている
甥・優馬との再開は単純に
楽しみでもあった。



そんなことを話していた時優馬の到着を告げる呼び鈴が鳴る。

「あら…来たみたい」

電話を切り出迎えた由紀子を待っていたのは、いつもの無垢な笑顔で抱きついてくる優馬の姿だった。

(あらあら…まだまだ子供ね…)

そう思いながら頭を撫でてやると嬉しそうな顔をする。

「叔母さん久しぶり！」

「久しぶりね！元気にしてたかしら？」

「うん！今日から一週間…叔母さんと一緒に遊ぶぞ〜！」

「こおら、宿題もしなきゃダメでしょ！」

「えへへ、わかってるよ！今年はとっておきの自由研究！

叔母さんも絶対に気に入るよ！」

そう意気込む優馬を見て微笑んだ由紀子は彼と共に家の中へと入るのだった。



夕方…優馬を置き食材を買い出しに出た由紀子だったがその帰り道優馬がしっかりと勉強しているかどうか気がなり、ふといたずら心が芽生えた。

(こっそり覗いてみようかしら?)

そんなことを考え静かに玄関を開けリビングに近づいた時、部屋からかすかにくぐもった声が聞こえてきた。

(なにかしら…?)

気付かれないようゆっくり覗くと…そこには信じられない光景があった

「…あ…あ…っ♡…ばさ…っ♡ゆき子おば…さん…っ♡」

それは優馬のオナニーによる喘ぎ声だった。

彼の手には自分のパンツがありそれを顔に押し当てている。

「あ…あ…あっ♡出る…っ♡」

次第に右手の動きが激しくなりビクビクと身体を震わせながら絶頂を迎える優馬。

由紀子は自らが起こした気紛れで見てはならない物を見てしまったのだ

動揺しつつもバレまいと改めて静かに玄関から出た由紀子だったが…優馬はそのことに気付いていた。そしてこれは…ほんの始まりに過ぎなかった。



その夜…シャワーを浴びながら先程の光景を思い出していた由紀子
(あの子…私の名前を呼びながらオナニーしてたのよね…)

倍近くも年の離れた男の子に性の対象として見られたことに動揺する。

(とはいえただの一回…一回だけなら年頃だしの一言で片付く)

そう言い聞かせお風呂から出た時だった。

入った時と微妙に差異のある物の配置…

そして何よりあまりにも独特で濃厚な匂いがそこには広がっていた。

まさかと思い洗濯かごに入れておいた自らの下着を手を取った時

先程言い聞かせた言葉が崩れ去って行くのを感じた。

その日から一週間…ほんの少し一人にただだけで彼は少年とは思えない程の性を家中に撒き散らした。

そして耳を澄ますと聞こえてくる声には必ず、自らの名前が入っていたのだ。

当然だが甥っ子に特別な気持ちなどないし、持つてはいけないこともわかっているから無視し続けてはいた。

…いたが……

それでも……次第に我が家で濃くなっていった”オス臭”は子を持ち歳を取って旦那にも見向きもされなくなった自らの”メス”を目覚めさせるのに十分な刺激となっていた…





僕…
知ってるん
だよ…？

叔母さんが
僕の精液の匂い
嗅いでたこと…

!?

ちょー…
優馬く…何してっ

もう……っ
言ってくれば
いいのに…

本当は僕だって
叔母さん本人に
精液かけたかった
んだから

え



あ……あ……

あ……

ふっ……

絞りたての……
オスの……匂い……

やっぱりダメ……
こんなの……
嗅がされたら……

何も考えられ
なく……なる……

そうして直接かけられた
精液の匂いを
嗅いでしまった時……
私の理性に霞がかかって
見えなくなるのを感じました

あは……っ

叔母さん……
凄くえっちな
顔してる



ねえ…叔母さん

僕も叔母さんの匂い…
沢山嗅ぎたいんだけど…

ハアンツ♡



いいよね…?



あ





ふはっ
叔母さんの
オマンコ汁
どんどん出てくるね

や...やだ...
言わないで...



は...
恥ずかしい...
まさか甥っ子に
おまんこ晒して
そんな指摘される
なんて...

でも僕...
叔母さんのなら
いくらでも舐め取って
あげるからね

でも自分でも
凄く濡れてるのが
わかる...



後になって考えれば
その異常な状況に興奮
していたというけども
あったのだろうけど...

間違いなく
それだけではなかった

この子の愛撫が
上手すぎたのだ

彼の愛撫は
ただがむしゃらに
刺激してイカせよう
とするような：
よく言われる男本位の
愛撫じゃなかった：

私が一箇所の刺激に
慣れそうになる度
別の箇所を刺激
して気を散らされる

それを繰り返され
結果どこを触られても
声が出るくらい
敏感になる



おまんこから愛液が止まらなくなる愛撫…

とても子供のテクニクとは思えなかった

ん…ふううッ
い…
イイっ♡



そこ…♡
そこは
らめ…っ♡

けど最近では初体験の低年齢化も進んでいるというし…恐らく優馬くんはこれが初めてではなかったのだろう



そしてそんな彼のテクニクに…
私は—

い…く…っ
イッちゃう…っ♡♡

だ…ダメ…ッ♡



ほたっ

ほたっ

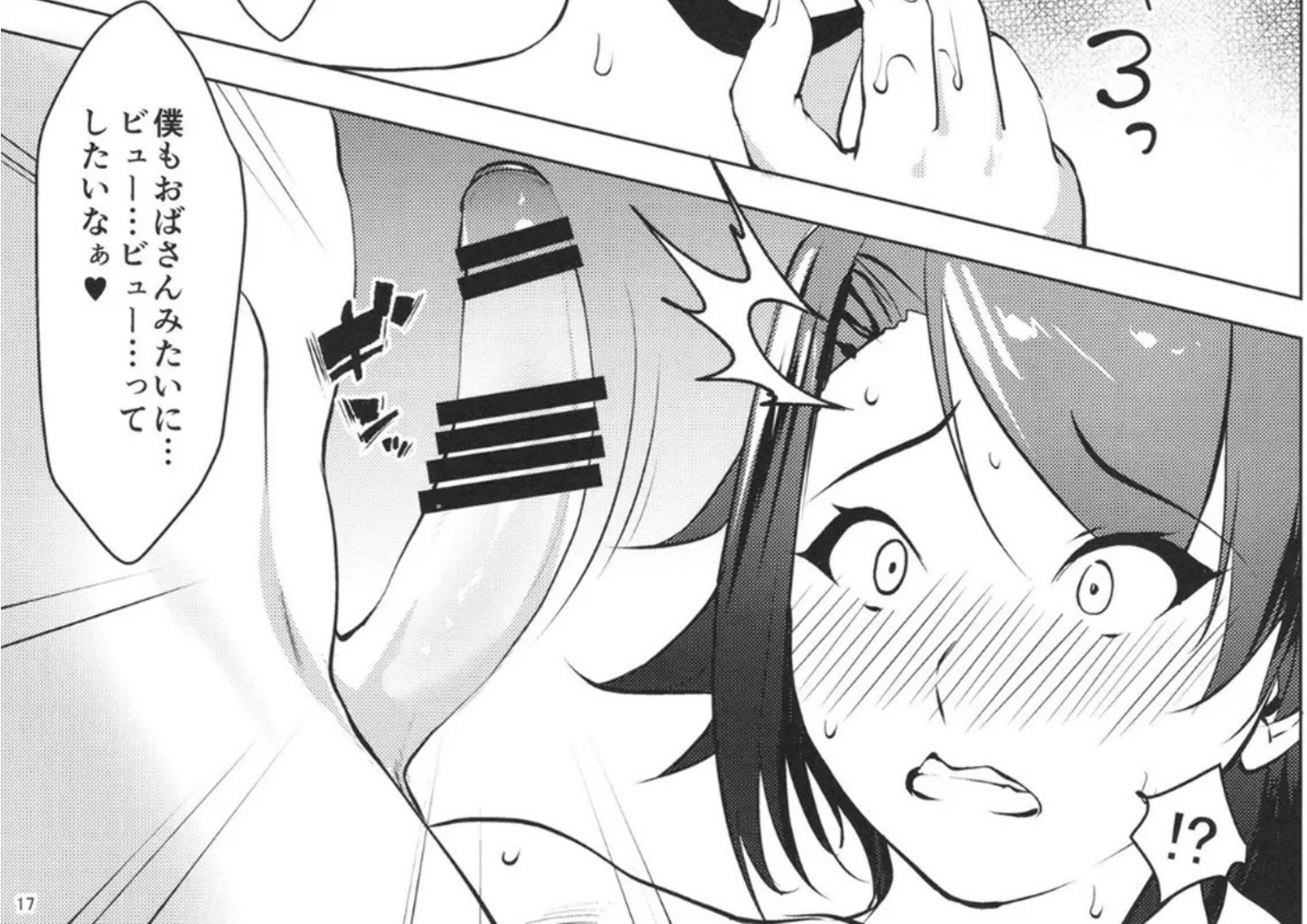
ほたっ

あははっ
凄い勢だったね

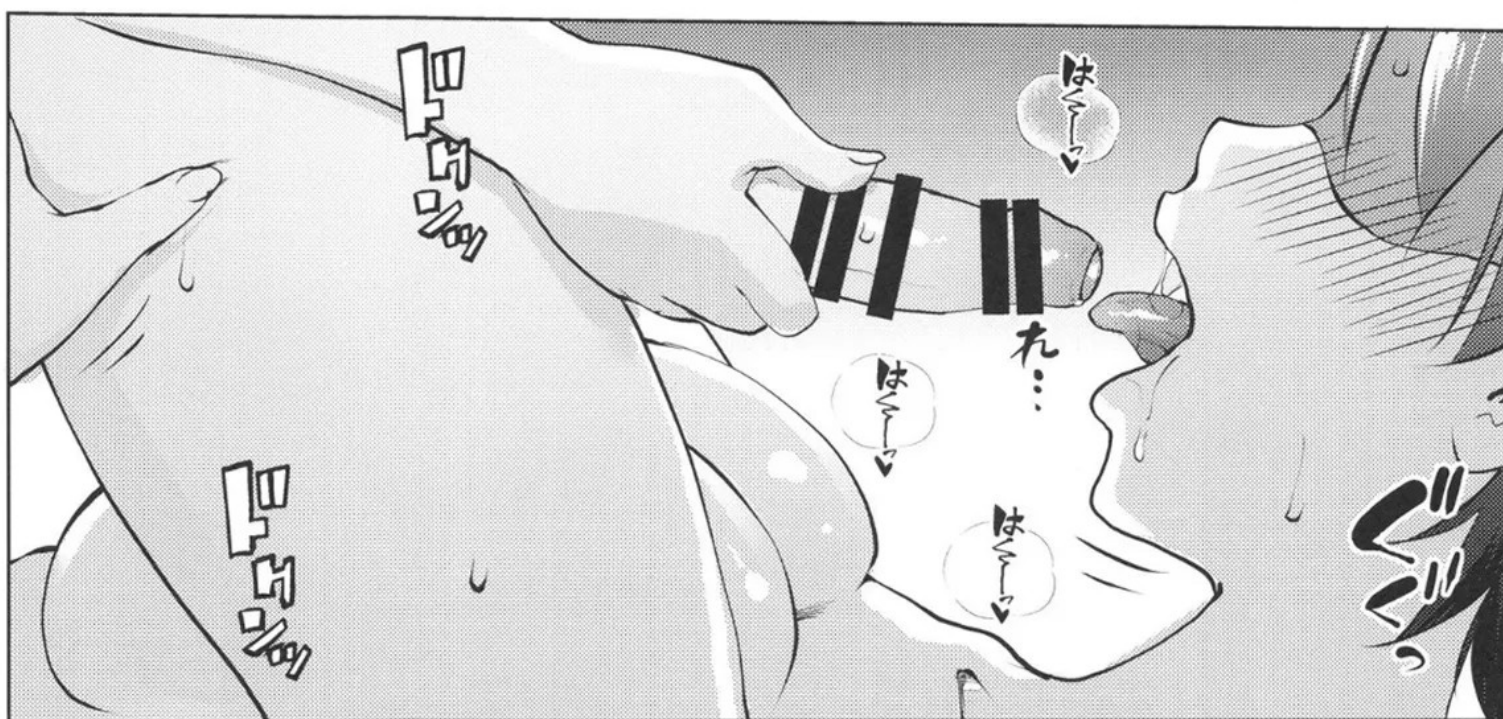


ね...おばさん

ろっ
る



僕もおばさんみたいに...
ビュー...ビュー...って
したいなあ♡





あはっ
ありがとう

お・ば・さん ♡



ジュンジュン

ジュンジュン



ジュンジュン

ああ

♡



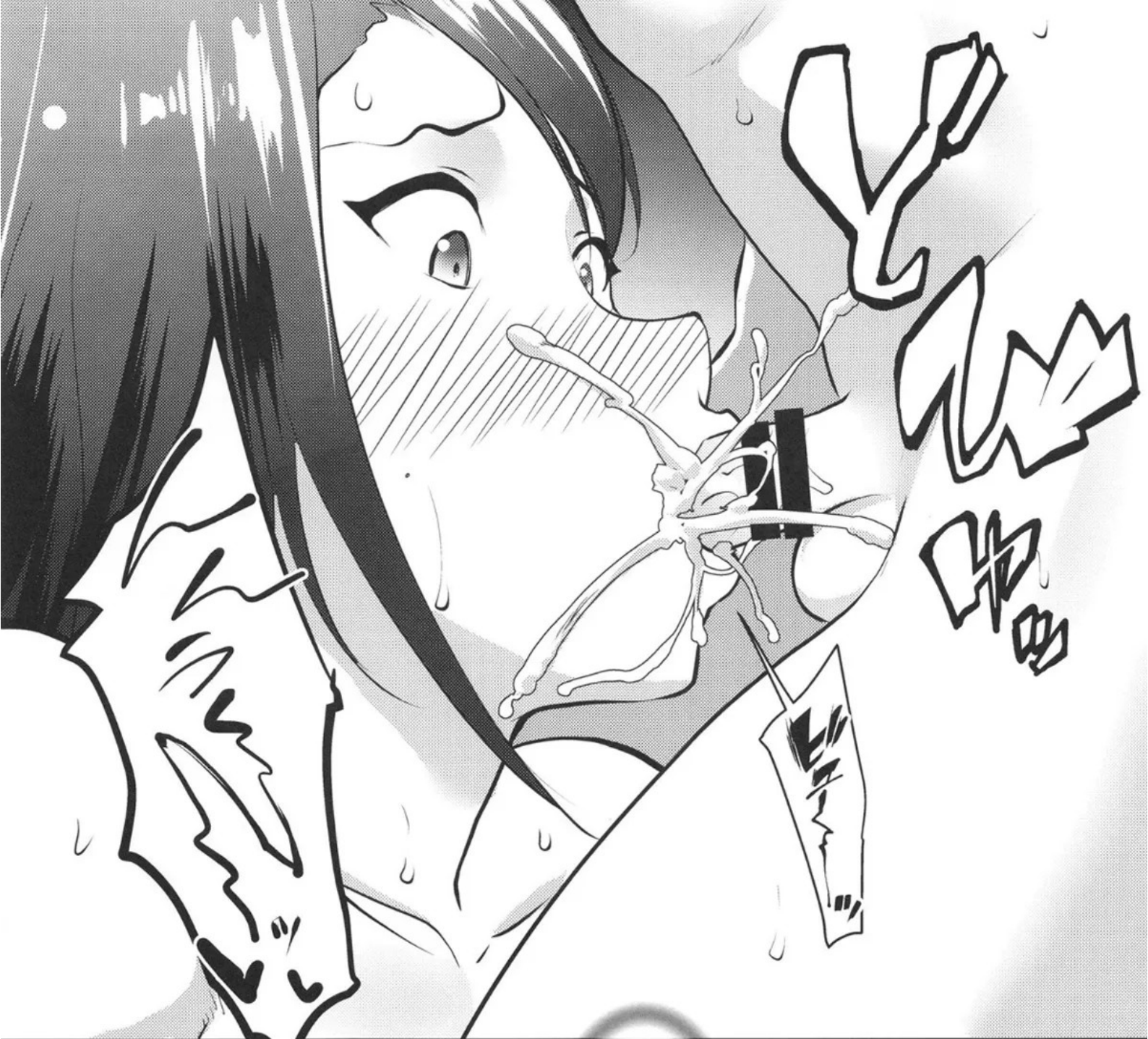


それ：
すっごい
気持ちいい
おばさん…っよ

あ~~~~っ
射精そう…っ

デる
デる
デる

デる…ッ



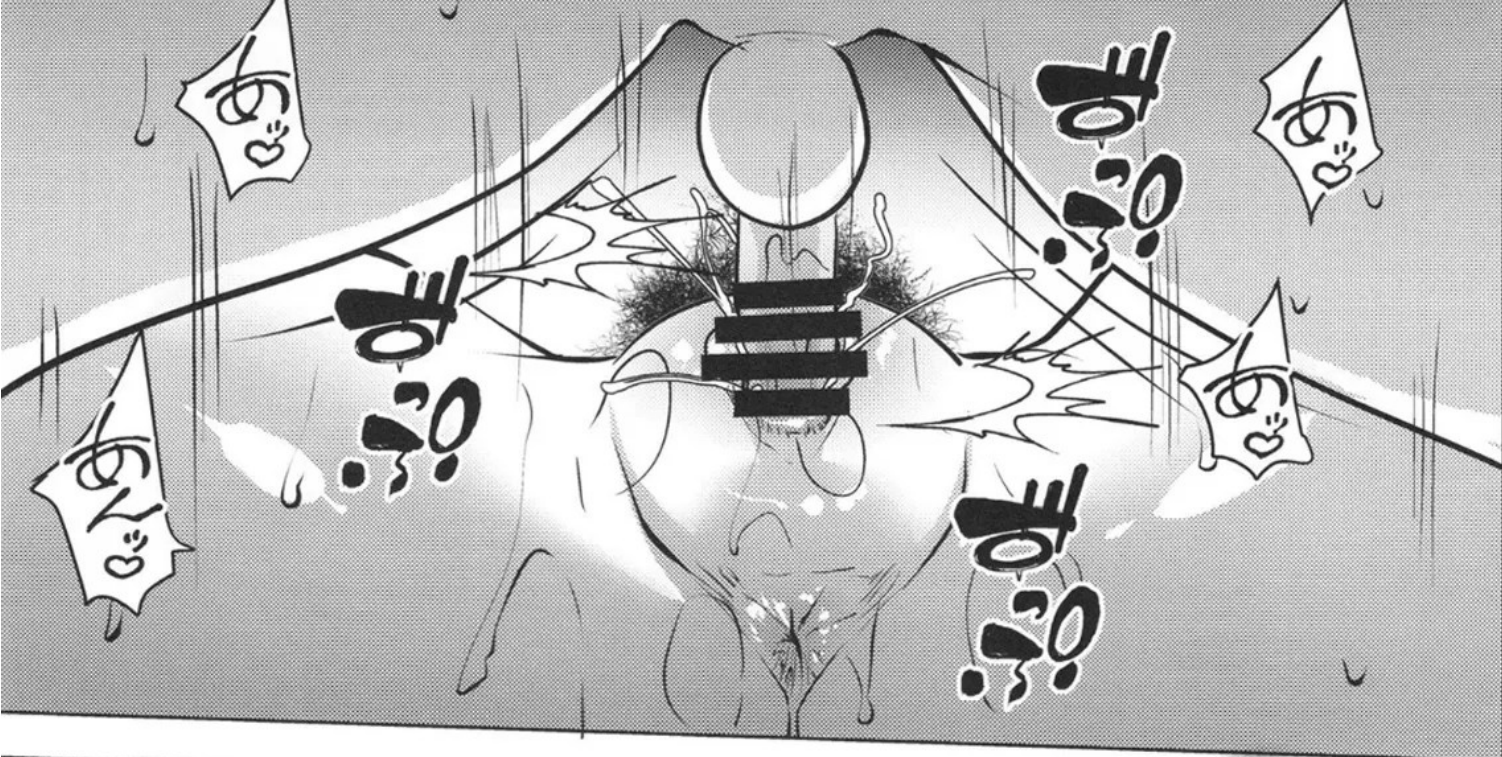
ああ……
濃い精液が
どろどろ流れてくる



はあ……あ……
出たあ……

あ……
出る……
もっと出るうっ





すごい…っ
久しぶりのおちんぼに
おまんこが喜んでるっ♡



甥っ子のおちんぼなのに
おまんこが喜んでる
るうう♡♡♡



はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ふふっ
おばさん
気持ち良そう♡

でも
まだまだだよ



もっともおろすと
気持ちよくしてあげるっ♡

はっはっはっ

はっはっはっ

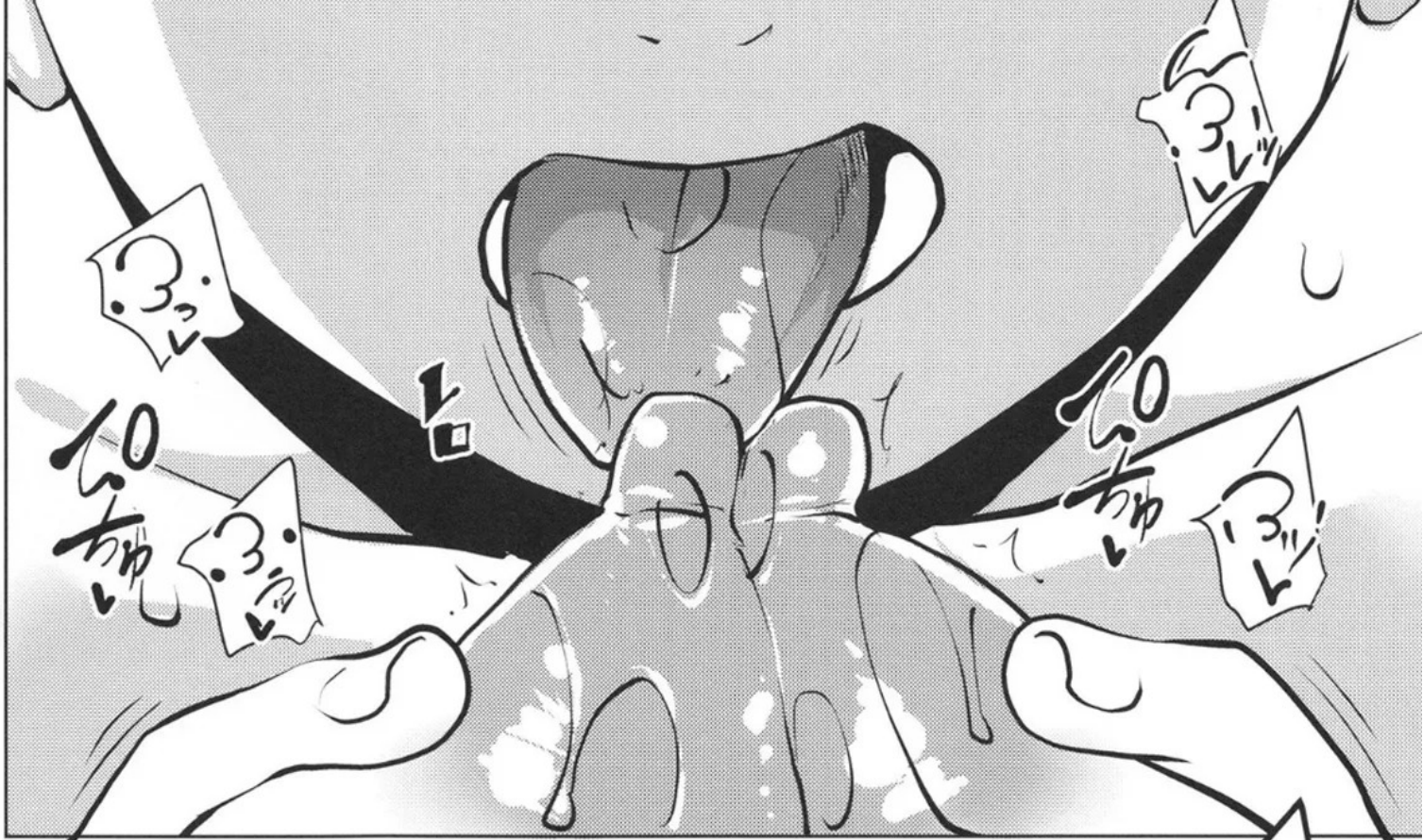
はっはっはっ

はっはっはっ

もっも

はっはっはっ

はっはっはっ





あ~~~~
凄い……っ
おばさんの
おまんこ
どンドン締まる

もう出そうだから
おばさんも
一回イこっ







ああ…ああ…

あたま…
真っ白…に……



まだ…まだ…

ぬるるるっ



だよ...っ

あぁあぁあぁ
あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

ちよ...
待っ

あぁあぁあぁ

あぁあぁあぁ

だるめ♡

今日…
僕は—



おばさんを
僕^の物にするって
決めてたんだからっ





め…す…

遊真…くんの…
メス…っ



僕ずっとずっと
思ってたんだ

おばさんを絶対
僕の女にするってっ



そうだよ…っ

なってよおばさん
僕の女に…ッ

なつてくれるまで
イカせ続けるよっ

ま
まっひえっ

ひよんなこと
ひやれはら：
くるっひやうっ

ゆうまくんの
おひんぼで
くるっひやうううっ
♥♥



ベロ出して…
おばさん♥







アッ

アッ







キチャウ…っ
またキチャウウッっ ♡

へへっ
おばさんいい顔に
なってきたね

もっ
もっ
もっ
と下品な声
聞かせてっ



お♡

お♡

カッパッ♡

お♡

お♡

子宮が降りてきてるの
わかる？

子供ちゃんぽに
はしたなく吸い付いて
精子欲しがってるのわかる？

わかる…
わかるわ…っ

私…
欲しがってる

はっ♡

はっ♡

はっ♡

タッ♡

タッ♡

タッ♡

おまん♡

おまん♡

私のおまんこが
遊真くんの精子を奥まで
びゅくびゅく注いで
貰いたがってるのおおっ♡♡

へへっ
いいよ

全部注いで
あげるっ

僕の精液だけを
受け入れるって
誓って

その代わり
お婆さんが僕の
メスだって誓って



あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ



私ーっ

あーっ
あーっ
あーっ

あーっ

あーっ
やりへっ
やりへっ

それじゃ
約束通りー



イツちやえええつ



この時の顔は
とても子を育てた
一児の母とは言えない
ものだったでしょう



ふふっ
叔母さん
すっごく気持ち
よかったね♡

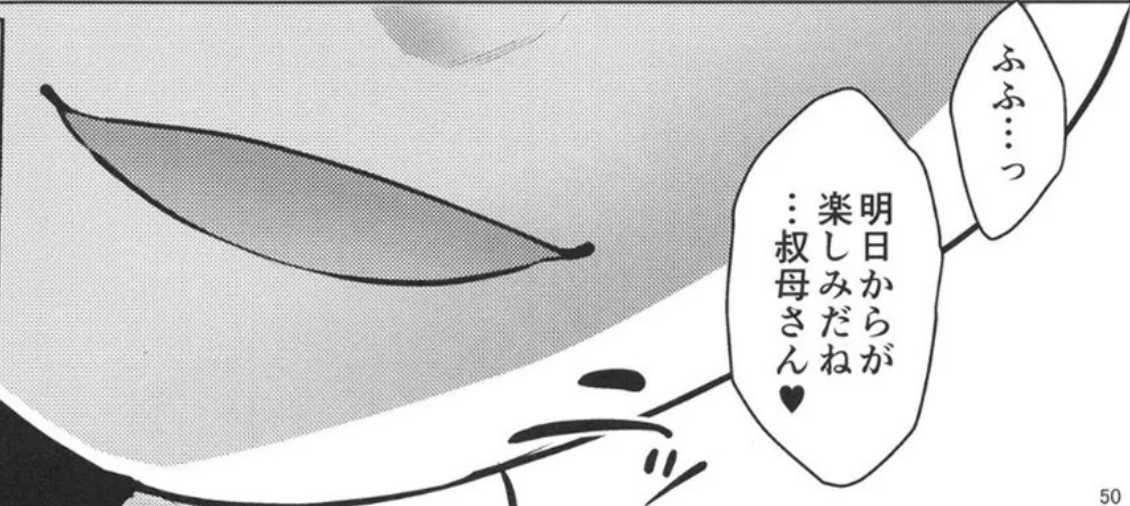
そして――



さて…
叔母さんも疲れちゃった
みたいだし今日は
これくらいにしとこっか

けど叔母さんが
望むなら明日からも
うんと気持ちよく
してあげるけど…
どうする…？

この時こそが
私が遊真くんの
叔母ではなく
メスになった
瞬間だったので



ふふ…っ
明日からが
楽しみだね♡
…叔母さん♡

あとがき

いかがでしたでしょうか

今回は実験的にドラマパートを絵物語にすることでエロシーンまでの時間をスキップしてみました

ドラマパートが主軸の場合はしっかり描いた方がいいとは思いますが私の作品はエロ重視なので設定だけすばやく描いて、エロのページを増やした方がいいのでは？という思いからやってみました。
何かご意見があったらお聞かせ下さい。

さて、今回は叔母と甥っ子の倒錯ストーリーでしたがこういうのもとてもエロいですよね！

自分はショタも好きですけど、ショタに攻められて余裕が無くなってしまいう女性の姿を見るのが大好きなのでこうなりました

多分この本を買っている人は大体の人そうでしょう(確信

そうでなくてもたまたまこの本を手にとってこの手の癖に目覚めた人がいたならそれはそれでとても嬉しいので友人もその沼に引きずり込んであげましょう(

あと近況としては描きたいものはあれど最近はあまり手が進まず作品の数が少なくてすみませんとだけ。。

年に二回は確実にお届けできるよう頑張りますので生暖かく見守って下さいませ

それでは今回はこの辺で！

七鍵智志

奥付

発行 : 七つの鍵穴
発行人 : 七鍵智志
発行日 : 2023/12/31
印刷 : スズトウシャドウ印刷 様

Emeil : codemasa7@hotmail.com

